

おもな学校感染症一覽表

もしかかったら・・・
学校をお休みしてください

下の一覽表にあげた病気は学校伝染病といわれ、たとえ軽症でも登校できません。かかったら学校に届けを出し、医師の許可があるまで家庭で安静にしてください。これは法律で定められた『出席停止』で、欠席あつかいにはなりません。



第1種学校伝染病 治癒するまで出席停止とする

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘瘡、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、特定鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9)の12種及び感染症法で規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、新感染症

第2種学校伝染病 学童によく起こる伝染病 出席停止期間、患者の隔離については守る。診断がついたら学校へ速やかに連絡する

| 病名 | 出席停止期間 | 主な症状 | 侵入経路 | 潜伏期間 | 伝染可能期間 | 予防方法 |
|--------------------------------|--|--|-------------------|-------|-----------------|--|
| インフルエンザ (新型及び特定鳥インフルエンザを除く) | 発症後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで | 発熱、頭痛、腰痛、全身倦怠感、鼻づまり、くしゃみ、たん | 気道飛沫 | 1～3日 | 発病後3～4日 | 流行時には人ごみの中ではマスク、うがい、手洗いを。予防注射も効果があるが、菌型が異なると効力がない。 |
| 百日咳 | 特有の咳が消失するまで、又は5日間の適正な抗生剤による治療が終了するまで | はじめは軽い咳、のどの発赤がみられる。発病後1週間くらいからコンコンという咳が出る | 気道飛沫 | 1～2週 | 発病後28日 | 予防接種 |
| 麻疹 (はしか) | 解熱した後3日を経過するまで | 発熱、せき、鼻水、めやに。頬の内側に白い斑点コプリック斑ができる。発熱後4日目より皮膚に発疹 | 空気飛沫 | 9～12日 | 発疹のでる5日前～でた後4日間 | 患者の隔離 予防接種 |
| 流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ) | 耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫れが出た後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで | 37～38℃の発熱。まず片側、ついで両側のおごの後ろが大きくはれて痛む。食欲不振、嚥下困難。 | 飛沫 | 1～2週 | 発病前7日から発病後9日 | 患者の隔離 患者の唾液のついたものが健康な人の口にふれないようにする |
| 風疹 (3日はしか) | 発疹が消失するまで | 発熱、発疹、耳の後ろ、首、わきの下等の腫脹。咳や結膜が充血する | 飛沫 気道 | 2～3週 | 発疹の出る7日前～後の7日間 | 患者の隔離 予防接種 |
| 水痘 (みずぼうそう) | すべての発疹が痂皮化するまで | 水ぼうそうのある発疹が体中に次々と出る。かさぶたとなり、先に出たものから治っていく。 | 飛沫 気道 | 2～3週 | 発疹の出る1日前～後6～7日 | 患者の隔離 予防接種 |
| 咽頭結膜熱 (プール熱) | 主要症状が消滅した後2日を経過するまで | 発熱、のどの痛み、結膜炎、くびのリンパ節の腫れ | 気道 結膜接触 汚染物 | 5～7日 | 発病後2～3週 | 有症者は水泳禁止とする。 水泳後よく流水で洗う |
| 結核 | 病状により学校医その他の医師が伝染のおそれがないと認めるまで | 初期は自覚症状なし。X線で見られることが多い。疲労感、寝汗、微熱、体重減少、肩こり、咳、たん | 空気飛沫 | 1～2ヵ月 | | BCG接種 X線による早期発見 栄養と休養に注意 |
| 髄膜炎 細菌性 髄膜炎 | 伝染のおそれがないと認めるまで | 発熱、頭痛、意識障害、嘔吐 | 飛沫 接触 | 2～5日 | 有効な治療開始後24時間まで | 手洗い |

第3種学校伝染病 病状により学校医その他の医師において伝染のおそれがないと認めるまで

| 病名 | 出席停止期間 | 主な症状 | 侵入経路 | 潜伏期間 | 伝染可能期間 | 予防方法 |
|-------------------|--------------------------------|--------------------------------------|-----------------------|-------------------------|---------|---|
| 流行性角結膜炎 (プール病) | 病状により学校医その他の医師が伝染のおそれがないと認めるまで | 涙がよく出る 目やに、異物が入っている感じ 結膜が充血する | 気道 結膜 接触 汚染物 | 5～7日 | 発病後2～3週 | 伝染力が非常に強いので患者の触ったものをよく消毒しておく。 手洗いの励行 |
| 急性出血性結膜炎 | | さつい充血 出血してくる | 結膜 汚染物 | 1～2日 | 発病後5～7日 | 患者のさわったものをよく消毒しておく。 手洗いの励行 |
| 腸管出血性大腸菌感染症 | | 激しい腹痛で始まり、数時間後に水様性の下痢をおこす。嘔吐、嘔気がある。 | 口 | 3～5日 | | 手洗いの励行 加熱消毒を十分にすること |
| コレラ | | 突然激しい水様性下痢と嘔吐で発症し、脱水に至る。 | 汚染物 口 | 数時間～3日 | | 手洗いの励行 |
| 細菌性赤痢 | | 発熱・腹痛・下痢・嘔吐などの症状が急激に現れる | 汚染物 口 | 1～5日 | | 体調管理 感染地域では、不衛生な生水・生物の飲食を避ける |
| 腸チフス パラチフス | | 持続する発熱・徐脈・発疹(バラ疹)・脾腫など。重症例では腸出血・腸穿孔も | 口 | 1～2週 | | |
| その他の伝染病 | 条件によっては出席停止 登校しながら治療が可能 | 伝染性赤斑(りんご病) 手足口病 流行性嘔吐下痢症(感染性胃腸炎) | ウイルス性肝炎 溶連菌感染症 | マイコプラズマ肺炎 RSウイルス感染症等 | ヘルパンギーナ | ※出席停止ではありませんがご連絡ください |